

「日本医学図書館」と金杉英五郎

Japan Medical Library and Dr. Eigoro Kanasugi

堀江幸司

東京女子医科大学図書館

東京慈恵会医科大学高木会館1階入口を入った右手に、金杉英五郎初代学長(大正10年—昭和17年)の胸像^{注1)}がある。それは、現学長阿部正和(第8代)の筆になる「医学情報センター」の名称板(標札)をみつめているかのようにもみえる。



金杉英五郎胸像(1984. 11. 12撮影)(堀江幸司撮影)

注1) 金杉英五郎の胸像は、古稀の壽像として吉田三郎(帝展審査員)によって2基制作された。1基は東京慈恵会医科大学(旧制)に、他の1基は日本医師会に寄贈された。日本医師会に寄贈された壽像は、現在、日本医師会館(神田駿河台)1階の玄関ホールに置かれている。

この金杉英五郎が明治35年(1902)当時、「日本医学図書館」¹⁻⁴⁾の理事長であったという事実は、余り知られていない。『東京慈恵会医科大学百年誌』⁵⁾、『極到餘音』⁶⁾、『金杉英五郎先生小伝』⁷⁾にもその記載はない。

「日本医学図書館」は遠山椿吉(ちゅんきち)⁸⁾(東京顕微鏡院々長)、川上昌保(キリスト者、ド

クトル)、川上元治郎⁹⁾(日本医事週報社々主)の主唱によって、明治30年(1897)7月に東京基督教青年会館¹⁰⁾—いわゆる神田青年会館(現在の YMCA)の図書館のなかに設置されたもので、その設立主旨および規則は以下のとおりであった。¹¹⁾

日本医学図書館設立主旨^{注2)}

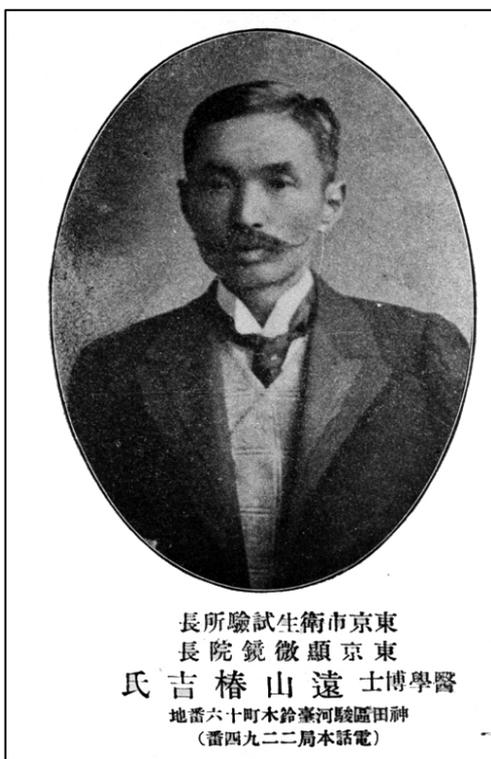
今や我医学の進歩は駸々(しんしん)として止る所無く随(したが)って医学の書の出版せらるるもの汗牛充棟(かんぎゅうじゅうとう) 啻(ただ)ならず獨力悉(ことごと)く之を購て机上の珍と為さんこと篤学の士と雖(いえど)もまた難しとする所なり。茲(ここ)に於いてか予等相計り日本医学図書館を設立し普(あまね)く内外の図書を網羅して学者研鑽の資に供せんと欲す。然りと雖(いえども)斯(かく)の如き大事業は予等が微力一朝一夕にして善く遂(と)くべきにあらざるを知るが故に予等は先づ目下の急務たる学生必須の図書を蒐集して聊(いささ)か渠(きよ)等に講学の便を與へ漸次事業を擴張して以て他日の大成を期せんとす。大方博雅(はくが)の君子等に予等が微衷を諒し大に助力を與へられんことを伏て乞ふ。

明治30年7月
遠山 椿吉
川上 昌保
川上 元治郎

日本医学図書館規則¹¹⁾

- 第1. 本館は医学に関する内外古今の図書を蔵し有志の閲覧に供する所にして日本医学図書館と称す。
- 第2. 当分の内本館を東京市神田区美土代町3丁目青年会館内に置く。事務は神田区佐久間町3丁目2番地川上昌保方に於いて取扱ふ。
- 第3. 本館の図書は何人にも之を閲覧せしむ。但し閲覧室の都合に依り謝絶することあるへし。
- 第4. 本館へ書籍金圓又は物品を寄贈せらるる時は本館は謹で之を受領し慎重に保管すへし。
- 第5. 閲覧規則は別に之を定む。

注2)引用中、原文がカタカナのところはひらがなとした。ルビは筆者が付けた。



遠山椿吉²⁹⁾



川上 元治郎²⁹⁾

当時、医師となるには、官立の医科大学を卒業するか、医術開業試験の難関を突破することが必要であった。そのための勉学の場と医学書を学生に提供することが、「日本医学図書館」が設立された理由の一つであった。また、それは、明治20年代頃から、各地の教育会を中心におこった図書館設立の動きに呼応するものでもあった。

明治30年(1897)12月11日(土)には、維持費を得るための「日本医学図書館寄附大演芸会」¹²⁾が開演されている。会場は、神田錦町の錦輝館であった。1,300余名が来集参会し、竹本小清、柳川一蝶齋、桃川如燕、三遊亭圓遊らが出演している。これは、成功堂の高後徹、萬壽堂の内田一二が会主になって企画されたものであった。¹³⁾

設立主旨が発表された半年後の明治31年(1898)1月25日午後2時から、神田美土代町の青年会館で、開館式¹⁴⁾¹⁵⁾が、医政界から多数の来賓を迎えて華々しく挙行されている。

150余名の来会者の中には、創立者の遠山椿吉、川上昌保のほか、ドクトル金杉英五郎、衛生局長後藤新平らの顔もあった。

「日本医学図書館」では、観覧者に無料で閲覧させ、書籍は、各自貯蔵のものを持ち寄り、さらに、一般著述者、出版者からも寄贈を仰ぐことになった。

明治32年(1900)には、暑中2カ月間へ閉館されたが、翌33年(1900)には、学生のために無休開館されている。¹⁶⁾

明治34年(1901)には、ヒポクラテス塑像が美術学校教授藤田文蔵によって製作され、希望者に一面5円で頒布されている。¹⁷⁾



後藤新平²⁹⁾

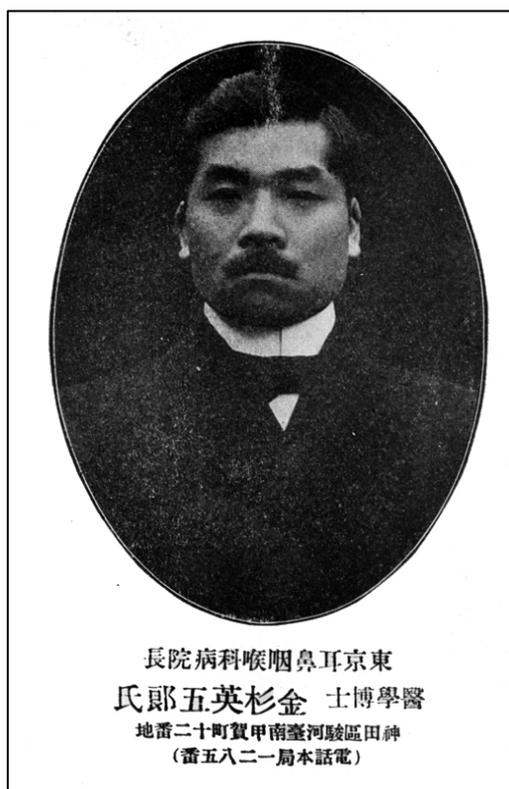
個人文献庫の資料(登録日:2009年7月22日)

その後、明治35年(1902)に至って「日本医学図書館」は、「廣く公衆の閲覽に供する事」を目的として神田一ツ橋の「帝国教育会書籍館」(「大日本教育会書籍館」の改称)のなかに付設文庫として拡張されることになった。¹⁸⁾同年7月1日から閲覽できるように、「日本医学図書館」所蔵の医学図書一切が、「帝国教育会書籍館」に委託されている。

胃腸病院院長長与称吉からは、父長与専斎¹⁹⁾²⁰⁾(初代衛生局長・大日本私立衛生会頭)の一周忌(明治36年9月8日)に先だち、「贈答の礼を廃し翁の追福を祈るため」として、親戚知友への贈茶菓に代えて、「伝染病救済会庫」に金150円、「日本医学図書館」に金100円が、それぞれ寄付されている。²¹⁾²²⁾²³⁾²⁴⁾

「日本医学図書館維持会」の会員は、その会員章を携帯することによって、無料で閲覽できることになった。

「帝国教育会書籍館」の入口には、「ボアソナード文庫」²⁴⁾²⁵⁾の例にならって、「日本医学図書館」の標札が掲げられたという。この時、「日本医学図書館」の理事長として「帝国教育会」との間に約定書¹⁸⁾を取り交わしたのが、後に東京慈恵会医科大学(旧制)初代学長となる金杉英五郎であった。



金杉 英五郎²⁹⁾

個人文献庫の資料(登録日:2009年7月22日)

金杉英五郎は、明治31年(1898)10月13日、東京市神田区衛生会および医師会々長⁶²⁶⁾に
当選し、明治35年(1902)当時は、東京慈恵医院医学校耳鼻咽喉科教授(明治25年5月—明
治36年)のほか、大日本耳鼻咽喉科学会名誉会頭でもあった。

この金杉英五郎によって拡張された「日本医学図書館」が、その後どのような足跡を印したの
か——。引き続き調査したいと考えている。

約 定 書

医学図書委託の件に付日本医学図書館と帝国教育会と取結ぶ所の約定左の如し

第1条 日本医学図書館は其所蔵の医学書を帝国教育会書籍館に委託し廣く公衆の閲覧に
供する事

第2条 帝国教育会書籍館に於いては日本医学図書館より委託を受けたる医書は其書函を
異にして之を出納保管する事

第3条 委託せる医学書より生ずる閲覧料は総て帝国教育会図書館の収入たるべき事

第4条 閲覧保管其他に関する費用は総て帝国教育会図書館の負担たるべき事

第5条 医学図書増加に関しては日本医学図書館維持会全然其責に任する事

第6条 委託の図書修理の爲め要せし費用は日本医学図書館より之を弁償する事

第7条 日本医学図書館より委託したる図書の返還を請求する時は現形の儘之を還付し帝
国教育会書籍館の不注意に属せざる毀損若くは失亡は日本医学図書館の損失たる
べき事

第8条 委託の図書閲覧上に関しては総て帝国教育会書籍館規則に依るべき事

第9条 日本医学図書館維持会理事長は一切帝国教育会図書館の会議に預るの権利あるこ
と

第10条 帝国教育会書籍館に於ては此約束を継続する間該館入口に日本医学図書館の標
札を掲出すべき事

第11条 此約束を継続する間は日本医学図書館の会員は無料(通常閲覧券に限ること)
にて該文庫の図書を閲覧することを得べき事但し該会々員は入会の節該会々員
章を携帯すべきものとす

明治35年6月
日本医学図書館理事長
医学博士 金杉英五郎

本稿をまとめるにあたり、東京慈恵会医科大学医学情報センター、日本医科大学図書館、順天堂大学図書館および日本医師会図書室の皆さんにお世話になりました。とくに慈恵(史料室)の高橋幸子さんには、なにかとご配慮いただきました。記して御礼申し上げます。

引用文献

- 1) 医学図書館設立の計画. 東京医事新誌, 1005:1315, 1897.
- 2) 医学図書館設置の計画. 医海時報, 162:486, 1897.
- 3) 日本医学図書館の設立. 大日本私立衛生会雑誌, 171:651-652, 1897.
- 4) 日本医学図書館の設立. 順天堂医事研究会雑誌, 793-794, 1897.
- 5) 東京慈恵会医科大学百年史編集委員会: 東京慈恵会医科大学百年史, 1980.
- 6) 極到餘音—金杉博士彰功会記念出版. 金杉博士彰功会, 1935.

昭和10年(1935)6月22日午後3時半より、上野公園内の精養軒に於て、金杉英五郎の古稀の壽にあたって、「金杉博士彰功会」(会長北島多一)主催の表頌式が挙行された。この時、募集された資金は、日本医師会取扱い約八千円、慈恵取扱い同じく八千円、合計一万六千円余であったという。²⁷⁾²⁸⁾これを機に上梓されたのが『極到餘音』である。『極到餘音』には、金杉英五郎の論説、随想のほか、略歴と著作が収められている。

- 7) 東京慈恵会医科大学耳鼻咽喉科学教室: 金杉英五郎先生小伝—昭和48年4月第74回日本耳鼻咽喉科学会総会を記念して—, 1973.
- 8) 宇留野勝弥: 遠山椿吉, 1968.

遠山椿吉は、明治26年(1893)から明治34年(1901)まで、東京慈恵医院医学校において「黴菌学」を担当している。同校において、明治36年(1903)から「生理学」を担当したのが、後に岡山医科大学に移り、「第2回官立医科大学附属図書館協議会」(昭和2年<1928>)を主宰した生沼曹六であった。

- 9) 川上元治郎先生の遠逝. 巖華川上元治郎先生略歴. 日本医事週報, 1058, 1915.
- 10) 鈴木理生: 明治生れの町神田三崎町. 青蛙房, 1978.
- 11) 日本医学図書館設立主旨及規則. 東京医事新誌, 1011:1562, 1897.
- 12) 日本医学図書館寄附大演芸会. 東京医事新誌, 1028:2163, 1897.
- 13) 日本医学図書館寄附の演芸会. 東京医事新誌, 1025:2040, 1897.
- 14) 日本医学図書館開館式. 大日本私立衛生会雑誌, 177:118, 1898.
- 15) 日本医学図書館開館式. 中外医事新報, 429:209-210, 1898.
- 16) 日本医学図書館の暑中無休. 順天堂医事研究会雑誌, 326:696, 1900.
- 17) 日本医学図書館のヒポクラテス塑像. 東京医事新誌, 1198:602, 1901.

個人文献庫の資料(登録日:2009年7月22日)

- 18) 日本医学図書館の拡張. 東京医事新誌, 1264:1047, 1902.
- 19) 松本順自伝・長与専斎自伝. 小川鼎三, 酒井シヅ校注. 東京, 平凡社, 1980.
- 20) 長与専斎先生. 中外医事新報, 540:1281-1283, 1902.
- 21) 故会頭の一週年忌. 大日本私立衛生会雑誌, 244:564, 1903.
- 22) 故長与翁の一週忌. 医海時報, 482:677, 1903.
- 23) 故長与翁の一週忌. 東京医事新誌, 1323:1498, 1903.
- 24) 竹林熊彦:近世日本文庫史. 京都, 大雅堂, 1943.
- 25) 小野則秋:日本図書館史(補正版). 玄文社, 1976.
- 26) 神田医師会十年史. 東京, 神田医師会, 1965.
- 27) 金杉博士表頌式次第. 東京医事新誌, 2935:1703, 1935.
- 28) 「町医者 of 棟梁」—極到翁金杉英五郎博士彰功会—上野の杜をゆるがす歓声. 東京医事新誌, 2936:1759-1763.
- 29) 醫師写真帳. 東京, 日本衛生新聞社・醫事衛生研究會, 1910.

(昭和60年3月5日 受理)